



TITLE:

各地よりのたより

AUTHOR(S):

CITATION:

各地よりのたより. 天界 1940, 20(228): 191-192

ISSUE DATE:

1940-03-25

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/167972>

RIGHT:

各地よりのたより

感謝すべき音づれ!!

謹啓。遂日溫和之候、益々御多祥之段、奉大賀候。

陳者、天界三月號にて、愈々來る十月南米へ日蝕御觀測に、協會の國際事業として、敢然御舉行の御趣意拜誦仕り、私共協會の末席を汚してゐる者とても洵に奉御同慶至極存候。國擘りてよりの未曾有の東亞大事業を遂行仕居候此の秋、本協會より、勇躍、海外に赴かれ候は、實に我が學術をして遍く世界へ十二分に誘示被爲遊候絶好の機會にて、御成功被爲成候はん事をば遂に御祈申上る次第に御座候。

就而、洵に不躰には候へ共、僅少なから茲許爲替同封申上候間、右微意のある所をば御斟酌賜、何卒御準備の一端へなりとも御笑納被成下度奉願候。

先は右御願迄如斯御座候。 敬白

三月六日

會員 矢野彰英

山本一清様 硯北

謹 告

金五圓也 寄附金 神戸 會員 谷口祐康殿

上記は紀元2600年記念として本會維持費に御寄附被下、芳志難有受領致しました。 二月21日 東亞天文協會 經理部

紀伊支部の人々



山本 岡本 阪田 野村 門 橘 筑野 新谷

喜多 池本 小槇 島田

倉 敷 通 信

紀元 2600 年を祝福する瑞兆と喜ばれた西空の五大遊星觀望會が2月22日に當地で催された。この日は大變寒くて、風が強く吹き、おまけに雪さへまじへた天候で、遊星の觀望もどうかと思はれたが、陽の沈む頃から風もなぎ、雲も切れて、定刻18時頃にはもう熱心な人々も集まつて、滅多に見る事の出来ない水星を薄明の空に求めて、7センチ150倍の望遠鏡で小さい半月の形をしたこの太陽に最も近い星を楽しんだ。そして或る人々は、山本先生指導のもとに、この珍しい五遊星の會合をカメラにおさめた。段々と暗さが増すにつれて、空のコンディションも良くなつて行つたので、32糧のドームを開けて、これ等の觀望にうつつた。“めつたに見られぬ星だから”と云つたつて、視直徑も小さいし、おまけに地平線近いものだから、その形さへ餘りはつきり見えないものだから普通一般の人々には、水星は餘り深い感銘も與へる事は出来なかつた。何んと云つても、人氣の中心は土星であつた。鏡裡にうつるその神秘的な奇觀には感激の聲を誰れしも放たないものはなかつた。まだまだあれもこれも心行くばかり星を見たがつたが、時間もさしせまつたので、20時少し過ぎから農研講堂に山本先生の“遊星の世界”といふ興味ある講演が行はれた。集まるもの5—60名、皆熱心に山本先生のお話をきき、或る者は手帳に控へ、講演が終つて後、質疑應答があつて、頗るなごやかな和氣に満ちた觀望と講演會が22時頃終つた。まことに皇紀2600年を壽ぎ祝ふのにふさはしい日だつた。

自分もこの水星にお目にかゝるのも何度目かで、この日より前から或は後にも何度となく薄明の空にこの星を望遠鏡裡にのぞいたが、とてもアントニアチ氏の様な水星の觀測は出来相にも思はれず、その形狀を楽しむだけだつた。誰か、この星を研究して見様と云ふ人はありませんか？(3—1)

編 輯 室 よ り

来る十月1日の日食を觀測に10人のメンバを本會から送るためには、旅費と諸器械、寫眞フィルムや乾板其の他の費用が全部で5萬圓は入要なのです。山本會長始め、會の主腦部は此の費用と優秀なメンバを得るために奔走中です。此の際に當り、いち早く矢野彰英氏から特志寄附金を頂いたことを感謝します。どうぞ他の會員たちも、此の遠征計畫をよその事と思はず、國家の學術の發揚のため御聲援を願ひます。

天文カレンダは好評です。御希望の方は成るべく早く御申込み下さい。

(本誌226號119頁參照)